

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4091601643, 社会福祉法人 三井福祉会).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

Empty box for business unit input regarding strengths and points to highlight.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=4091601643-00&ServiceCd=320&Type=search).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty box for external evaluation input regarding strengths and improvements.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会).

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: Item No., Description, Achievement Status (radio buttons), and Achievement Details (numbered list 1-4).

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に笑顔で共に楽しみ心に寄り添うあたたかホーム」を理念に掲げ、出勤時に玄関に掲示しているものを見て仕事に入っています。また、会議時に時折、理念の意味をどう捉えているか話したり、唱和して共有するようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃、近所への散歩や買い物に行き、ご近所の方と仲良くなってお庭のお花を頂いたり、近くの神社へお参りをしたり、地域の催事に参加したりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで利用者様の生活の報告を行い、地域の方へ、理解や支援を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催し、ご家族や地区の方々へ活動を伝えたり、施設内の紹介を行い、ご家族の相談や提案なども取り入れ、サービス向上につなげています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新規のグループホームの為、わからないこと等あれば、随時連絡をして、相談や協力を煽り、施設作りの為の連携を取っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修や内部研修で学んだり、会議時に話し合い、身体拘束をしない取り組みやケアの仕方等話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為の勉強会を定期的に行い、グレーゾーンにあたることやスピーチロックがないか、職員もお互いに気を付けながら、気になることがあれば話し合い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を使っている方はいらっしゃらないが、今後入居される利用者様で、制度を使われる方がいらっしゃることを想定し、学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には十分な説明を行い、ご利用者やご家族様の疑問や質問等があれば、その都度お答えしています。また、それ以外でもいつでも不安や疑問がある時はお答えするようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、いつでも意見や要望を言えるようにしている。また、電話や面会時等にも意見や要望をお聞きし、運営に反映しています。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員からの意見や提案をしやすいように、いつでも声掛けしてもらえるように促している。また、会議の場では、意見したことを検討する時間を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算や特定処遇改善加算、ベースアップ加算等を取り入れて給料水準を上げたり、希望休や有給取得を取りやすくしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	面接、採用に関しては、施設内の意向を考慮し採用の有無を決定しています。また、採用については年齢、性別は問わず、職員一人ひとりが生き生きと特技を生かした仕事を行えるようにしています。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の全体研修で学んだり、施設内で話し合い、指導や教育を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体研修に全員参加したり、法人外での研修に行き、学んだことを会議等で発表して、職員全員で共有できるようにしています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と合同の行事を行ったり、他事業所が行っている取り組みを学んだり取り入れられるようにしてサービスの質を向上していくこと、活動しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えや希望、要望を傾聴し、出来る限りの対応を行う事に努めている。また、ご家族へも報告や相談をしながら、より良い関係を築いています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時より、不安や心配事をお聞きし、入居後も随時相談があればお聞きして解決するまで話し合うようにしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と話をし、より良いサービスが選択できるように、必要なサービスをその都度提案し、利用して頂いています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒にしたり、散歩や行事等で一緒に出掛けたり、普段の生活の中で互いに楽しみながら生活できるように寄り添った馴染みの関係を作っています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の制限が緩和された為、居室で面会をして頂いたり、状況報告書を2ヶ月に1回送ったり、面会や来所時には近況報告や相談をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にもご友人や親戚の方にも面会に来て頂いたり、電話でお話して頂いたりしています。また、個別ケアで今まで通っていた散髪屋に行ったり、馴染みのスーパーへ買い物に行ったりしています。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で仲が良かったりそりが合わなかったりにより、リビングでの席を決めたり、レクリエーションや手作業等で職員が間に入る事でご利用者同士が協力し合ったり、話しやすい雰囲気づくりをしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居されたご利用者でもう1度入居希望される時などは申し込みを頂いています。また、必要に応じて、入院先の担当者様から問い合わせがある時等も相談や支援を行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人様との会話を通して、ご本人様の思いやどのように生活していきたいかを聞き、それを基に検討しています。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前よりご本人様やご家族、担当ケアマネ等により生活歴を確認していて、職員間で情報の共有をしています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方に合わせて居室やリビングで好きなように過ごして頂いています。また、職員間でケアの統一を図り、声掛けやコミュニケーションを気がけて行うことで、心身の安定に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族からの希望を聞き取り、多職種で連携しながら本人様により良い生活を送って頂けるよう介護計画を作成しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中で気付いた事や変化をその都度記録に残し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに繋げています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族より新たなサービスの要望があった場合は職員間で話し合い出来るだけ要望に添えるように取り組んでいます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍での制限が徐々に緩和され、近所の保育園児との交流やボランティアによる太鼓の演奏等を通して彩りある生活になるように支援をしています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居前から掛かっている病院をそのまま継続して頂いたり、ご本人様やご家族様の希望を通して頂いています。かかりつけ医とは往診時や電話で報告や相談を行い、適切な医療が受けられるように努めています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が毎朝バイタルサイン測定を行い、他にも日々の様子と違ったり異変が見られる時は職場内の看護師に報告し、指示を仰ぎ必要に応じて受診等の対応を行っています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は病院の医師や看護師、ソーシャルワーカー等と情報を共有し、入院中の様子を伺う為、連絡を取り合いながらいつでも退院して対応できるようにしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して事前に本人や家族に聞き取りをした上、事業所のできることを伝えてその実現に向けて方針を決めています。また、その方針は変わることもある為、その都度話し合いをすることになっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で看護師主催の勉強会を行ったり、緊急時の対応をフローチャートでまとめた物をいつでも見れるようにしています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害時の対策の為、事前にどこへ避難するか決めてあり、避難時に必要な物は準備してあります。また、火災時の為、消防立ち合いの元、避難訓練をご利用者も一緒にを行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、その方にあった声掛けや誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに注意を払っています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望にそってできることはすぐ行えるようにし、その都度対応している。すぐにできないことに対しても別日にできるように話したり、別の対応でも大丈夫か、本人に聞いて決めてもらって頂いています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせて居室で過ごしたい方、散歩や買い物に出かけたい方、歌を歌ったりゲームをしたり、個人の希望にそって支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の服はご利用者本人と一緒に選んでいます。また、髪が長く髪のセットができない方に三つ編みや編み込みをしたり、お化粧品なども支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な盛り付けを一緒に行ったり、漬物や行事食を一緒に作ったり、野菜の皮むきをしたり、食べたり飲んだりした後の食器を一緒に洗ったりして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間以外にもおやつや夜間にも水分が取れるようにしています。生活記録として、毎食食事量の把握をチェックして、食の細かい方には量や食事形態の工夫もしています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをしていただき、仕上げ磨きが必要な方は支援しています。夜間は義歯は洗浄剤にて洗浄しています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して排泄パターンを把握し、声掛け、定時誘導、訴え時やトイレに行きたいと思っているしぐさ等みて、自立にむけた排泄支援を行っています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分が取れるよう促したり、毎日体操や散歩や個別リハ等行い、週3回手作りヨーグルトを提供しています。それでも便秘の訴えがある時は、看護師による腹部マッサージを行ったりしています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を行っているが、声掛け時に断られた方には時間をおいて声掛けを行ったり、夜間入浴を促したり、体調があまり良くない時などは清拭や更衣のみ等にしています。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調等に合わせて、居室で休息していただけます。また、居室には使い慣れた寝具を持参していただき、安心して休まれるように支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情に沿って薬の用途や副作用を把握し、お一人おひとりの飲み方に合わせた支援をし、症状の変化時は看護師に報告して指示を仰ぎ、記録をするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴で就寝前に飲酒されていた方に毎晩同じように提供したり、外出が好きな方の支援を行ったり、家事が好きな方に廊下の掃除や洗濯たみ等一緒に行き、お一人おひとりの希望や、やりたいことをができるように支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くに散歩や買い物に出掛けたり、お一人おひとりの希望に沿って個別ケアを行い、外食や花を見に行ったり、ドライブに行ったりしています。また、行事でも皆様で外食やぶどう狩りなどに出掛けたり、ご家族との外出や外泊も支援しています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物や食べたい物がある時は一緒に予算を検討したり、買い物や外食に行った時には職員と一緒に支払いをしたりして頂いています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人専用の携帯をお持ちの方は好きな時に電話をしていただいたり、お持ちでない方にも、ご家族と連絡が取りたい時は、施設の電話で話していただいています。また、ご家族から届いた手紙はご本人へお渡しして読んでいただいています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を飾ったり、ご利用者と一緒に作った作品を飾ったりしています。広さは車椅子がすれ違っても通れる広さで、温度は事務所で一括管理しています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに寝っ転がったり、1人掛けの椅子でゆっくりと座り外を眺めたり、気の合うご利用者同士で和気あいあいと話したり、思い思いに過ごされています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口がわからなくなる方にはご自分が見やすい所に名前を付けたり、居室にはご自宅で使い慣れた寝具やタンス等お持ちになり、ご家族の写真を飾ったり、ご本人様の居心地が良い空間にしています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーの平屋建てで、手すりも設置しています。また、リビングの窓から見える花壇には花や野菜を植えているので、収穫時期になると、利用者様の方から実がついているや収穫できるなど教えていただいています。		